東京都臨床工学技士会

2009 年度東京都臨床工学技士会総会･学術大会報告

第 1 部　第 20 回　東京都臨床工学技士会総会

【会長挨拶】

納会長の挨拶
会員の皆様、お足元の悪い中お集まり頂きまして誠に有難うございました。
さて、今回の総会での大きな議題として一般社団法人化の問題があります。
すでに都道府県技士会で法人化になっているところもありますが、
当会でも法人化の方向で検討を進めております。
今回の総会で皆様の合意が得られた場合には、法人化に向けて手続きを
行っていきたいと思いますので、どうぞ宜しくお願い致します。

次に、当会で実施したアンケートの結果、
全体の約7割が20代から30代の若手会員でした。
当会では若手のニーズにあった活動を展開していきたいと考えますので、
若手会員の方の積極的なご参加を期待します。

また、女性の会員も全体の約3割と多くなりました。
女性部会の企画で「電話相談窓口」を設けましたので、
女性自身が抱える悩みや相談などがありましたら是非ご利用下さい。

次に、当会では会員のスキルアップのため、「卒後研修システム」を構築中です。
すでに案の段階から運用方法を思案する段階に達しました。
今年度中の運用を考えていますのご期待下さい。
最後に、臨床工学技士の更なる発展のために、新たな業務に積極的に取り組む
姿勢を皆で持っていきましょう。

【議案】

第 1 号議案　平成 20 年度事業報告
第 2 号議案　平成 20 年度決算報告
　　平成 20 年度監査報告
第 3 号議案　選挙管理委員会報告

第 4 号議案　定款改正
第 5 号議案　平成 21 年度事業計画（案）

第 1 部　第 17 回　東京都臨床工学技士会学術大会

座長：野口裕幸（日本医科大学付属病院 ME 部）　須田健二（杏林大学保健学部）

一般演題〔Ⅰ〕（呼吸・ME 業務・循環ほか）

O-1)難治性潰瘍患者に対する高気圧酸素療法の治療効果
～透析患者と非透析患者の比較～
日本医科大学付属病院ＭＥ部
○島崎弥生、黄川田信允、原正高、松田範子、野口裕幸、坂本篤裕
当院再生医療科では下肢難治性皮膚潰瘍に対する一連の治療として、高気圧酸素療法（以下 OHP)を唯行している。今回、OHP を施行した糖尿病性難治性潰瘍患者において、透析患者と非透析患者間で治療効果の差異を比較・検討したのでここに報告する。

O-2）熱線付人工吸器回路による加湿精度の検討
慶応義塾大学病院 医用工学センター、同麻酔科①
○高沢天湖、平林則行、又古徹、矢島聡①、森崎浩①
現在当院では、熱線なし人工呼吸器回路と加温加湿器(MR410)を使用している。今回、気道機能保持の目的で 2 社の熱線付人工呼吸器回路と加温加湿器(MR850)の加湿精度について比較・検討を行ったので報告をする。

O-3)無線警報システムの臨床使用とその評価
日本医科大学付属病院ＭＥ部
○大石沙織、野口裕幸、鎌田隆行、黄川田信允、坂木蔦裕

個室ではアラーム音や光は遮られやすい環境にあるといえる。
個室での人工呼吸器使用において、より安全煎を高めるために
個室外の場所でも、人工呼吸器の作動状態を監視できる警報システムを
工夫･改良し、導人にむけてその安全ｔ生･有用性を評価することとした。

O-4)当院手術室における臨床工学技士業務の現状
日産厚生会　玉川病院　臨床工学科
○柴田国弘、元良俊太、高橋章太、高橋真理子、江東理紗、鈴木修、水盛陽子、
大崎英忠、五十嵐一生、織田みゆき、井上博満
平成 20 年 4 月より手術室に臨床工学技士 2 名が専属配置となり、
手術室内の機器筒理を目的とした業務を開始した。
今回、当院手術室での臨床工学技士業務の現状について報告する。

O-5)電子カルテ導入と手術室の技士業務
順天堂大学付属順天堂医院 臨床工学室器
○佐藤剛
電子カルテの導入により、手術時における医無機器の使用が表示されるよう
になり便利になった。今までは手術申込書に記載されている項目を逐一確認
していたが､電子カルテ上ですべて確認できるようになり術前の準備が
しやすくなった｡しかし表示される項目は業務がルーチン叱している
自己血回収装置、人工心肺、神経モニタリングなどであり、特殊使用に際しては
従来どおりである。
したがってまた改良の余地が残っている電子カルテ九に技士業務を反映させたい。

O-6)当病院における臨床工学技士の役割
綾瀬循環器病院　臨床工学科
○島崎雄太、丁毅学、坂本勇貴、上野裕貴、高嶋梢、神岡美喜、勝目治朗、
川端修太郎
当院は循環器医療における 3 次救急を担っており、ME は手術室･
カテーテル検査室･ICU･病棟クリニックで様々な業務に取り組んでいます。
その業務内容と緊急体制を紹介します。

O-7) 当院ペースメーカ業務における現状と課題
虎の門病院　臨床工学部
○鄭奈恵、仲盛智之、白井康之、石綿清雄
当院で臨床工学技士が行っているペースメーカ業務には、ペースメーカの
植込み手術の立会い、退院前のデータチェック、ペースメーカ外来による
定期的なフォロー、外科手術等の院内対応、緊急時対応などがある。
今回これらの現状と課題について報告する。

【ランチョンセミナー】

司会：星野敏久先生(板橋中央総合病院　臨床工学科)

「C型肝炎ウイルス吸着『VRAD』について」
講師：宮川浩之先生(東京慈恵会医科大学青戸病院　臨床工学部)
2008 年 4 月に保険適用となった慢性C型ウイルス肝炎に対し、
インターフェロンと二重濾過血漿交換療法を併用したウイルス除去療法
(VRAD) について、施行条件や留意点、当院における治療成績、
今後の課題などを紹介する。

第8回　【都民公開講座】

司会：加納隆　先生(埼玉医科大学　保健医療学部)

「街を飛び交う電波と医療機器～ペースメーカに影響を与える電波について～」
講師：豊島健 先生(日本メドトロニック株式会社　テクニカルフェロー)

街を飛び交う電波がペースメーカーに与える影響について詳しくお話して
頂きました。電波の安全性や危険性、都市伝説に至るまで大変興味深い
内容でした。また、一般公衆者 49 名もの来場があり、電波が医療機器へ与える
影響に関しての関心度の高さが伺えました。質疑応答では一般公衆者からも
様々な疑問が投げ掛けられ充実した公開講座となりました。

第 2 部　第 17 回　東京都臨床工学技士会学術大会

座長：田口幸雄(博樹会　西クリニック)、矢野晃司(宏池会　吉川内科小児科病院)

一般演題〔II〕(代謝・血液浄化)

O-8)透折中の深部体温に及ぼす血圧変化の検討
板橋中央総合病院　臨床工学部、同腎不全外科
○竹田恵子、作間沙織、大野裕祐、宮嶋恵美子、金子多佳子、高野知夫、
星野敏久、松野直徒、川瀬友則
目的：透折中の血圧変動に対し深部体温に変化があるか検討した。
方法：慢性維持透析患者に透析中、深部体温計を頭部と非シャント肢に

装着し測定した。
結果：頭部深部体温は血圧変動に対し変化せず安定していたが、
非シャント肢深部温は血圧低下と同時に低下する症例が認められた。

O-9) PMX について

慶応義塾大学病院　医用工学センター
○佐藤慎吾、平林則行、陣内眞、又吉徹

今回小腸穿孔の患者に対するエンドトキシン吸着（以降 PMX)を経験した。
PMX 施行後、収縮期血圧、平均動脈圧の上昇、カテコラミンの減少が見られた。
これらの結果をもとに PMX の作用や効果について検証した。

O-10) 新しい血液浄化用装置 KM9000 の使用経験

東京女子医科大学　臨床工学部、臨床工学科①、血液浄化療法科②
○伊部紀子、江口圭、宮尾眞輝、安部貴之、村上淳、金子岩和、峰島三千男①、
秋葉隆②

新装置 KM9000 (クラレメディカル社製) を臨床使用する機会を得たので、
①操作性②バランス制御の精度、③監視機構について評価した。

【緊急シンポジウム】
『医療の安全を考える』

S-1) 当院の患者間違い防止策の策定とその効果

公立学校共済組合　関東中央病院
○中尾次政隆

当院では、平成 18 年3月より患者間違い防止の為、患者参加型の確認方法を導入している。
これは、患者自身にフルネームで名乗ってもらい、当該患者かどうか揖宿認するものである。
輸液や投薬、輸血などはもちろんのこと、手術室やレントゲン室への入室、採緋灸査などについても同様にしている。
また、轍夜や輸血などを行う際にはこれに加えて、実際にボトルやバヅグに貼付してある氏名を、
患者とスタッフがお互いに参照しあってから開始する方法を始めているが、これらの効果について検証する。

S-2)複数の潜在的要因により誘発された事故発生時の装置動作

東京女子医科大学　臨床工学部、臨床工学科①、腎臓小児科②、血液浄化療法科③
○宮尾眞輝、村上淳、金子岩和、峰島三千男①、服部元史②、秋葉隆③

目的：近年の血液浄化装置には多種多様な機能が装備されるようになってきた。
またその多くは非常に有用で、治療効率や安全性向上の一役を担っている。
しかし臨床使用すると、取扱説明書や修理マニュアルには記載されていない装置動作をする場合がある。
それらは突発的で、かつ瞬時に判断しづらく、重大事故に至りかねない。
そこで今回、経験した事故から判明した装置特性とその対策を検討した。
事例内容・検討方法：東レメディカル社製血液浄化用装置 TR－525 とその専用回路 U－525MC を用いて血液浄化療法を施行した。その後、クリットライン波形の上昇や全身の浮腫などの出現により血液回路を確認してみると、透析液回路を謝って装着していることが分かった。この事例を受けて、実機と模擬回路を用いて再現性を確認し、装置特性を検証した。

【パネルディスカッション】
『臨床工学技士の新たな取り組み』

座長：酒井基広(東京女子医科大学 臨床工学部)、井上博満（日産厚生会　玉川病院　臨床工学科)

PD-1)当院における抗癌剤灌流法～NIPP～

○鈴木健一

日本医科大学付属病院　ＭＥ部

当院では骨盤内臓器悪性腫瘍に対し体外循環を用いて高濃度の抗癌剤を還流させる＜閉鎖循環下骨盤内抗癌剤還流療法（NIPP）＞を行っている。
今回はその体外循環法と今まで行ってきた改良点を報告する。

PD-2)各診療科で用いられる最新機器の管理

○又吉徹

慶応義塾大学病院　医用工学センター

PD-3)循環器（カデ室）部門における臨床工学技工業務

○加藤文彦

東邦大学付属医療センター大橋病院　臨床工学部

昨年、平成 20 年 4 月から各業者の立ち会い業務の規制が施行された。
当院でも新しい取り組みとして臨床工学技士がどのようにカテ業務に関われるかを考え、実際この一年で変化したのか、また今後どのようなことが出来るのか考えた。

PD-4)病院経営に関する業務

○新秀直
東京大学付属病院　企画経営部

2009 年 3 月まで東大病院医療機器管理部で臨床工学技士として、
業務に従事してきたが、4 月より、主に病院経営に関する業務を行う
『企画経営部』に異動することになった。そこで、企画経営部に異動した経緯や
その業務内容、臨床工学技士に期待されるその役割について報告する。
病院運営と言ってもその業務内容は多岐に渡る。医療機器に関する業務
だけでなく、医療をとりまく制度的な問題への取り組みや資金調達、
将来の病院像を作り上げるなど、臨床工学技士とはあまりなじみのない業務も多い。
現時点では臨床工学技士の視点をどのように病院経営に活かせるか
暗中模索の状況ではあるが、臨床工学技士の基本精神を忘れずに将来の
臨床工学技士のステップアップとして研鑽を積んでいきたい。

【懇親会】

今年も総会および学術大会を無事に終えることが出来ました。
関係者の皆様ならびにご出席いただきました皆様お疲れ様でした。
今年度も無事会員数の1/3以上の参加および議長委任があったため、無事に総会を成立することができました。

また、毎年恒例となりました都民公開講座も一般の方が年々増えており多く来場された印象がありましたね。

懇親会では、話す人、食べる人、飲む人！少しホットしたような印象がありました。
今年も有意義な時間を過ごせたのではないでしょうか？

2009 年度東京都臨床工学技士会総会･学術大会報告